



平成28年度 数 学 簿 記

問 題 冊 子

注 意 事 項

1. 監督者の指示があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。
2. この問題冊子は、5 ページに組んである。
なお、落丁、乱丁および印刷不鮮明なものがあればすぐ申し出ること。
3. 解答用紙に必ず本学の受験番号を記入すること。解答用紙1枚に受験番号欄が2箇所ある。
4. 解答は、問題番号に対応する解答用紙に記入すること。
なお、赤で記入するべき箇所も黒で記入してよい。
5. 記入した解答用紙は、裏返して机上におくこと。
6. 解答用紙の中の※の欄には記入してはいけない。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

1 複式簿記の特質について説明しなさい。

2 次の取引を推定しなさい。(単位：円)

- | | |
|--------------------|------------------|
| ① (借) 仕 入 10,000 | (貸) 買 掛 金 10,000 |
| ② (借) 買 掛 金 500 | (貸) 仕 入 500 |
| ③ (借) 売 掛 金 30,000 | (貸) 売 上 30,000 |
| ④ (借) 売 上 1,000 | (貸) 売 掛 金 1,000 |

- 3 定額資金前渡法を採用している A 商店の小口現金に関する 11 月中の取引は、以下の小口現金出納帳のとおりであった。この小口現金出納帳をもとに、会計係が 11 月 30 日に行った仕訳を示しなさい。

なお、小口現金出納帳の内訳欄には、通信費・交通費・消耗品費・雑費の各欄が設けてある。

小口現金出納帳

(単位：円)

収 入	平成 〇 年		摘 要	支 出	内 訳				残 高
					通信費	交通費	消耗品費	雑 費	
30,000	11	1	小 切 手						30,000
		5	新 聞 代	3,500				3,500	26,500
		8	郵便切手代	2,500	2,500				24,000
		13	帳簿・ノート代	2,000			2,000		22,000
		18	タクシー代	3,700		3,700			18,300
		25	電 話 代	4,670	4,670				13,630
		29	茶 菓 子 代	1,200				1,200	12,430
			合 計	17,570	7,170	3,700	2,000	4,700	
17,570		30	小 切 手						30,000
		"	次 月 繰 越	30,000					
47,570				47,570					
30,000	12	1	前 月 繰 越						30,000

4 A 商店では仕訳帳の代わりに、入金伝票・出金伝票・振替伝票を用いる 3 伝票制を採用している。

A 商店の当期(×6 年 1 月 1 日～×6 年 12 月 31 日)における次の取引について、2 つの異なる方法で各伝票に取引発生日の日付、(勘定)科目、金額を記入しなさい。各伝票の科目に人名勘定(例：○○商店)を使用しないこと。

3 月 30 日

B 商店へ商品 15,000 円を売上げ、代金のうち 5,000 円は現金で受取り、残額は掛けとした。

5 次の決算整理事項にもとづき、解答用紙の精算表を完成させなさい。ただし、会計期間は×7年1月1日から×7年12月31日までの1年である。

1. 現金の実際手許有高は83,100円であった。帳簿残高との不一致の原因は不明である。
2. 前期に生じた売掛金のうち7,000円が貸倒れとなったが、その処理がなされていなかった。受取手形および売掛金の期末残高に対し、3%の貸倒引当金を設定する(差額補充法)。
3. 売買目的有価証券の時価は90,500円である。
4. 期末商品棚卸高は72,000円である。なお、売上原価の計算は「仕入」の行で行う。
5. 建物および備品について、定額法により減価償却を行う。

建 物	耐用年数	30 年	残存価額	0
-----	------	------	------	---

備 品	耐用年数	8 年	残存価額	0
-----	------	-----	------	---

なお、建物のうち300,000円は×7年4月1日に取得したものであり、上記と同じ条件で減価償却を行う。ただし、月割計算による。

6. 消耗品の期末未消費高は4,200円である。
7. 受取手数料の前受額は6,500円である。
8. 支払保険料のうち3,840円は、×7年6月1日に保険に加入し、向こう1年分を支払ったものである。
9. 借入金は×7年8月1日に借入期間1年、年利率5%で借り入れたものである。利息は元金とともに返済期日に支払うことになっている。